

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	朝日村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	県産間伐材利用推進事業 (役場交流ホール展示ケース、パンフレット台、来客用机)
事業費		533,000円 (うち支援金: 533,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

全体の 87%を山林が占める朝日村では、戦後カラマツが植林され、60 年が経ち、活用の時期を迎えています。しかし、村内の製材所はなくなり、林業従事者も皆無の状況でカラマツの利活用が求められています。

(2) 本事業の目的 ((1) の課題への対応方向について記載)

村産材カラマツで公共施設の備品を作り活用することで、直接触れてもらい、木材の有効利用を伝え関心を持ってもらう。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 朝日村役場 (大字古見 1555-1)

(2) 対象者 役場来庁者

(3) 実施方法 村内において木工作家が多くいるため、デザインと見積りをいただき、一番適したものを採用し、作成し配備を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元年～4 年度)

令和 元年度 役場庁舎 木工品展示台 1 基、パンフレット台 1 基、客用机 2 基

令和 2 年度 図書館 木製本棚 役場パンフレット台 2 基

令和 3～4 年度 朝日村役場 来客用長椅子 5 基 図書館 椅子 10 脚



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

直接触れる村産製品を多くの村民が訪れる朝日村役場交流ホールに設置する事で、木製品の良さを広め、普及を図る事ができる。

(2) 継続性

- ・パンフレット台から得た情報をその場で確認できるよう、来客用机と同じ空間に用意し、定期的に発信される役場の情報を村産木製品から得られる
- ・また、展示台は公共物の展示ではなく、村内の木工作家、製作所の製作の木製品を展示し、連絡先など掲示する事で、継続的な村内木材需要の向上を図る事ができる。

(3) 普及性

- ・展示台は朝日村木工作家の小物作品展示を予定しており、制作者と消費者としての来庁者を直接つなぐことを目的としています。
- ・また、同一空間でパンフレット台と来客用机を用意する事で、得たパンフレットや木工製品に触れ合う空間を作り、村産材の普及を推進します。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・朝日村役場交流ホールは、断続的なイベントの開催と、隣接のコンビニエンスストアなど活用した住民等の交流の場として活用が図られている。
- ・展示ケース、パンフレット台は、情報発信と村内工芸等の紹介の場所として、村内外の来庁者の認識を高め、今後の需要高揚につながります。

(2) 課題

- ・木製品の良さを普及するためには、今後ともに整備を含めた普及啓発が必要と考えられ、次年度以降も公共施設、子供の居場所等における直接触れる調度品については、木製品化を検討する必要があります。
- ・また、購入や活用がしやすくなる方法を今後検討し、村内に基盤づくりの検討にも入る必要があります。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- ・今後ともに、普及するため事業継続を予定。ただし、事業内容については、都度精査を行い、より触れあえる空間を検討し、利用方法の改善を図り、実施したい。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

朝日村

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害防除事業 (松くい虫防除に関わる地上散布、伐倒くん蒸、樹幹注入への補助金)
事業費		162,300円 (うち支援金: 138,000円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題 (別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

当年に入り、朝日村では松の枯損被害が急速に進行しています。村内に 826ha の松林を有しており、今後の動向により一層の注意が必要です。しかし、現在の被害箇所は人家集落に近く、空中散布等の対応が難しい現状があります。

(2) 本事業の目的 ((1) の課題への対応方向について記載)

個人所有地での樹幹注入、伐倒くん蒸、地上散布に対し、10/10、50,000円上限の補助を行います。集落内に点在するアカマツ、クロマツ等、松くい虫の被害を防ぐことによって、被害拡大防止を目的とします。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 朝日村内

(2) 対象者 朝日村民、朝日村内に土地を有し対象松がある方

(3) 実施方法 所有松について実施前申請、審査を経て、交付決定後、防除実施、完了後は完了報告をもって、補助金交付を確定する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

令和元年度 8申請 15本 (樹幹注入 7申請 14本/伐倒駆除 1本)

令和2年度 9申請 36本 (樹幹注入・伐倒駆除)

令和3年度 10申請 39本 (樹幹注入・伐倒駆除)

令和4年度 11申請 42本 (樹幹注入・伐倒駆除)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・集落内、個人所有の松被害を防ぎ、森林へ感染を遡減する。

(2) 継続性

- ・本年から急激に被害拡大しているため、今後も樹幹注入等の予防対策補助は継続的に実施する。
- ・また、所有者自身が対処する仕組みを推進する事で、今後発生が予測される村内松枯損被害の情報を提供してもらう土壌を作る。

(3) 普及性

- ・村内に広く周知(回覧板、広報等)し、松くい虫に対する補助事業を共有する事で、朝日村住民等へ広く注意喚起の効果が期待できる。
- ・また、松枯損の被害拡大抑制に繋げる事ができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・村内広報等を活かした告知をする事で、申請件数は目標件数に至った。
- ・朝日村に松くいの被害が出始めている認識を持っていただけた結果と考えている。

(2) 課題

- ・本補助事業は平成28年から実施しており、次年度で5年を迎える。
- ・薬剤効果が5~7年程度である事から、薬剤の効果切れを考慮して、さらに普及啓発の必要性がある。
- ・次年度以降は、従前の実施者等も含め、呼びかけをし、活用をさらに進める必要がある。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・広報等に加え、森林施業団体、生産森林組合、造園業者等を通じ、普及啓発を行い、活用率の増進を図ります。

- 事業内容を見直して継続する**

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)